

融合学域の志願者増を目指し 専門家目線で広報をてこ入れ

2021年度に開設したばかりの「融合学域」の認知度を上げ、志願倍率をアップさせるため、これまでのキャリアで培ったノウハウをもとに課題を見える化し、今後5年間に及ぶ広報活動プランを策定した。

取り組み内容

**Step 1
課題把握** 実態把握とニーズ分析のため、ヒアリング調査やアンケート調査を実施。その上で融合学域の課題を数値化、可視化した。

**Step 2
対策立案** Step1で明らかとなった課題を解決するためのアクションを方向づけ、今後5年間の広報活動プランを立てた。

**Step 3
体制整備** Step2で立てた広報活動プランを実施していくための体制づくりについて検討を開始した。

**Step 4
課題解決** 来年度以降、広報活動プランを実行していくことで課題を解決に導こうとしている。

受入企業

国立大学法人 金沢大学

理事・副学長・融合学域長

大竹 茂樹 さん

4学域20学類を有する国立の総合大学。「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」を大学憲章に掲げる。2021年度に文理医融合教育を通じて起業家精神にあふれ、イノベーションをリードする人材を育成する「融合学域」を新設。23年度は文科省の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に採択された。

研究員

山崎 千晴 さん

金沢市出身。大学進学と同時に上京。国内大手化粧品メーカー勤務を経てイギリスの大学院を修了した。その後、主に外資系のメーカーなど3社でマーケティングリサーチャーとしてブランド開発を手がけた。このうち1社ではインドに在住し、ヘアケア製品のブランドを開発した。多地点間の国際プロジェクトマネジメントの経験がある。

共創型企業・人材展開プログラム 事例

CASE:

志願者増へ
新設学域の
広報を強化



取り組みの成果
・
今後の取り組み

- ・融合学域の教職員自身が気づいていない魅力を高校生に届く短い言葉や見せ方で情報共有・発信した。
- ・広報活動プランの立案に向け、学生募集・広報担当の教員と一緒に北陸3県を中心に新潟、長野、愛知の計33校を訪れ、高校教員にヒアリング調査を実施。また融合学域の教員、在学生とその保護者、高校生にアンケート調査を実施し、現状と課題を明確化した。
- ・志願倍率を安定的に3倍以上に保つことを目標に、今後5年間の広報活動プランを立案した。

企業の評価・今後の関わり方

参加理由

- ・融合学域は開設初年度こそ志願倍率が3倍を超えたものの、3年目の2023年度は2倍を切り、危機感を感じていました。同学域の先駆的な取り組みが受験生等に十分周知されていないことがその原因と考え、外部人材を活用して広報活動をてこ入れしたいと考えました。

評価（成果・社内変化など）

- ・山崎さんは広報の強化に向け、私たちとは違った視点で多岐にわたる提案をしてくれました。すぐに効果が出るとは期待していなかったのですが、教職員の取り組みと山崎さんの活動が奏功し、志願倍率が当初目標を超える2.44倍に上昇し、非常にうれしく思っています。
- ・融合学域にはさまざまな魅力が詰まっているのですが、山崎さんは広報ツールが利用者目線で作られておらず、その魅力が十分伝わっていないことに気付かせてくれました。これも外部人材を活用する大きなメリットだと感じました。
- ・山崎さんに提案してもらった広報戦略を来年度以降、本格的に展開し、融合学域を志望する学生の増加につなげていきたいと思えます。

今後の関わり方

- ・来年度は常勤の専門業務職員として勤務してもらいます。これからも周りに忖度せず自由に発想し、自分の思ったことをどんどん提案してほしいと思っています。大学の未来を変えてくれる人材として大いに期待しています。

研究員の評価・今後の展望

参加理由

- ・家族の都合もあり、いつか地元の金沢に帰りふるさとに貢献したいと思っていました。以前の勤務先の同僚が、本プログラムに4期生として参加していたことを偶然知り、Uターン転職にあたってソフトランディングするにはぴったりの内容と感じ、エントリーしました。

評価（取り組み・生活）

- ・融合学域の志願倍率に関わる状況について、ブランドマーケティングの手法により、「認知」に課題があると仮説を立て、各種調査結果からニーズを分析、課題を整理し、ブランド力を強化することで、志願倍率を安定的に伸ばし維持できる広報活動プランを策定しました。
- ・本プログラムの他の研究生や先輩、大学の先生、北國銀行や事務局の皆さんなど、幅広いネットワークを持てたことがよかったです。困ったことや悩みも相談できて、心強く感じました。
- ・教職員皆様の知的レベルが高い上、人としても非常に多才で魅力的で、多くの刺激を受けました。外部から来た私を自然に受け止めていただき大変感謝しています。

今後の展望

- ・立案した広報戦略は4月から実施となるので、来年度の志願倍率の結果が自分の最初の評価だと考えています。今後は職員となり融合学域のブランド力を高めるこの仕事を通じて、ふるさととのさらなる発展の一助になりたいと思います。